

6. 新中学校の通学に関する現況調査

6. 新中学校の通学に関する現況調査

通学距離が片道2km未満の生徒は、原則徒歩通学を想定している。統合後は多くの生徒が2km以上となるため、その通学方法について十分に調査検討していくことが肝要である。

6-1. バス通学について

令和7年度(2025)バス通学対象者分布

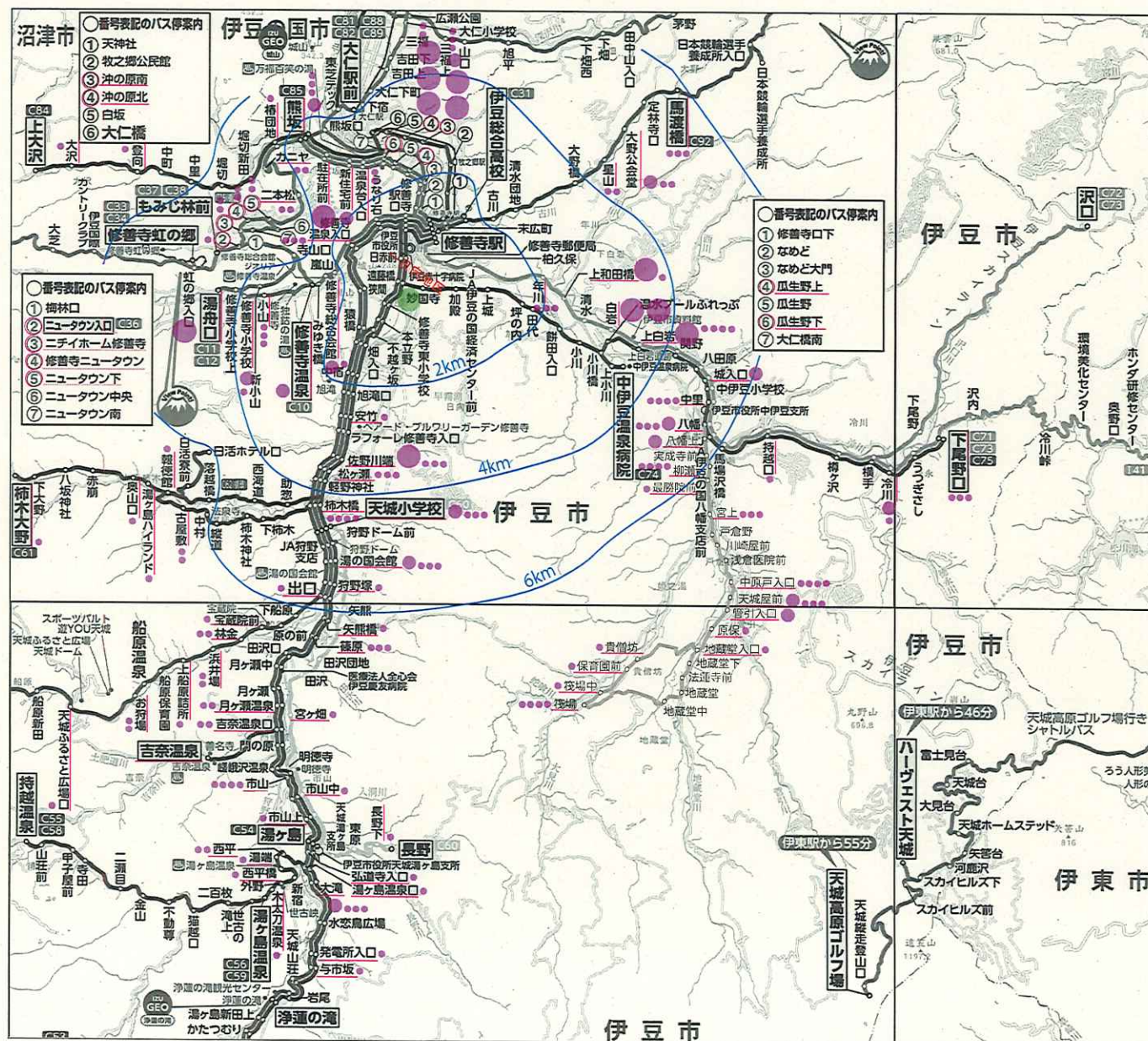
東海バス路線図(東海自動車株式会社)および伊豆箱根バス路線図(伊豆箱根バス株式会社)と、伊豆市教育委員会提供資料をもとに作成した新中学校が開校する令和7年度のバス通学対象者の分布図。

バス利用の条件は、新中学校からの道のりが2km以上。

【分布图凡例】 :10人

- ・中伊豆地域、天城地域の生徒は全員対象となるが、修善寺地域内の対象人数も多い。
- ・牧之郷方面の人数が多い。修善寺中学校から徒歩通学だった範囲も、約800m南の日向地区からは2km以上となっている。
- ・日向地区から4km圏内に10人以上の符号が多く見受けられる。

この内容を踏まえ、自転車の通学経路の現地調査を行う。



6-2. 自転車通学について

自転車通学経路の調査

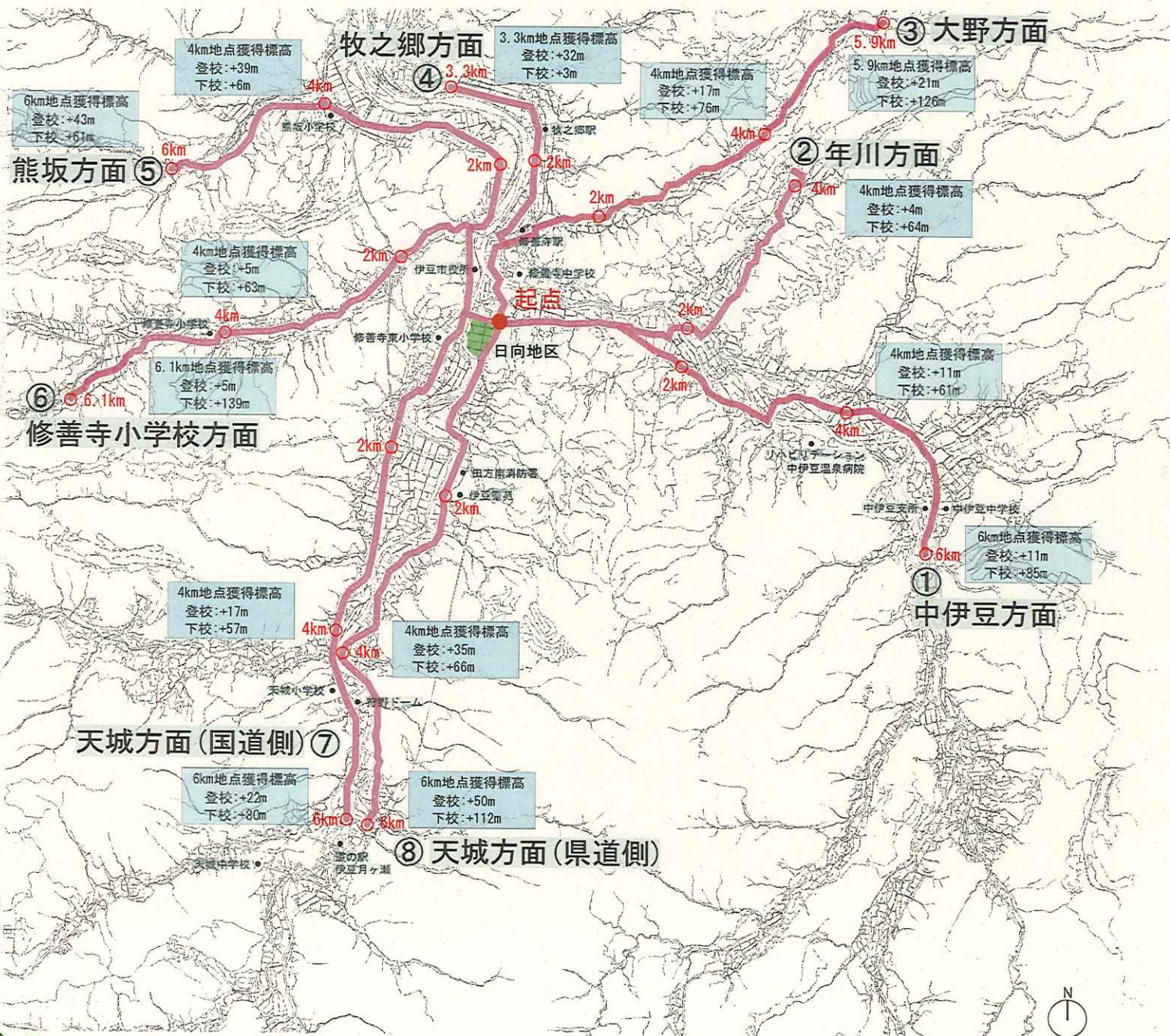
調査の対象範囲と方法

調査対象は、自転車通学の場合の主要道路となる下記の8方面。自転車通学許可の可能性のある2km～6km程度まで、実際に走行して現地を確認。

- ①中伊豆方面
- ②年川方面
- ③大野方面
- ④牧之郷方面
- ⑤熊坂方面
- ⑥修善寺小学校方面
- ⑦天城方面(国道側)
- ⑧天城方面(県道側)

調査のまとめ

- ・中伊豆中学校や天城中学校では、自転車通学は許可していなかったため、住民に馴染みがなく、地域への周知も含め安全確保の対策は十分に必要である。
- ・新中学校の学区は広範囲となり、道路状況は多様であるため、自転車通学の許可範囲や通学路の設定には、方面ごとに検討することが必要となる。また距離だけではなく獲得標高も大きな指標になる。
- ・調査した経路には、急坂や道路巾の狭い箇所も多く、自動車の交通量の多い時間帯や天候にも因るが、危険な部分がある。
- ・路肩部分の自転車レーンの整備や、歩道も走行可能なように道路標識だけでなく、自転車通学者が集中する経路には待避所等の整備が必要。
- ・農道を経路にする場合には街灯の整備が必要な箇所が出てくる。
- ・自転車通学の許可範囲について、生徒の個人差にもよるが、実際走行した感覚としては距離は4〜5km程度、獲得標高60m程度を上限とするのが適当だと思われる。
- ・バスへの乗降時間が長くなると予想されるため、交通状況への影響を抑えるために停留スペースが確保された「主要な停留所までの自転車+バス」や、「最寄りのバス停まで自転車+バス」の検討の余地がある。



6-2. 自転車通学について
自転車通学経路の調査 ① 中伊豆方面





6-2. 自転車通学について
自転車通学経路の調査

③ 大野方面

経路の大部分で片側1車線の広い道路が整備されている。
伊豆総合高校手前から平均5%程度の上り坂が続き標高差が大きい。
交通量は比較的小さい。
伊豆総合高校バス停から馬渡橋バス停付近までは一部を除き道幅が広く整備は不要だが、起点からTP50地点までは車道に自転車用青矢羽根表示や歩道に自転車通行可能表示が必要。



6-2. 自転車通学について
自転車通学経路の調査

④ 牧之郷方面

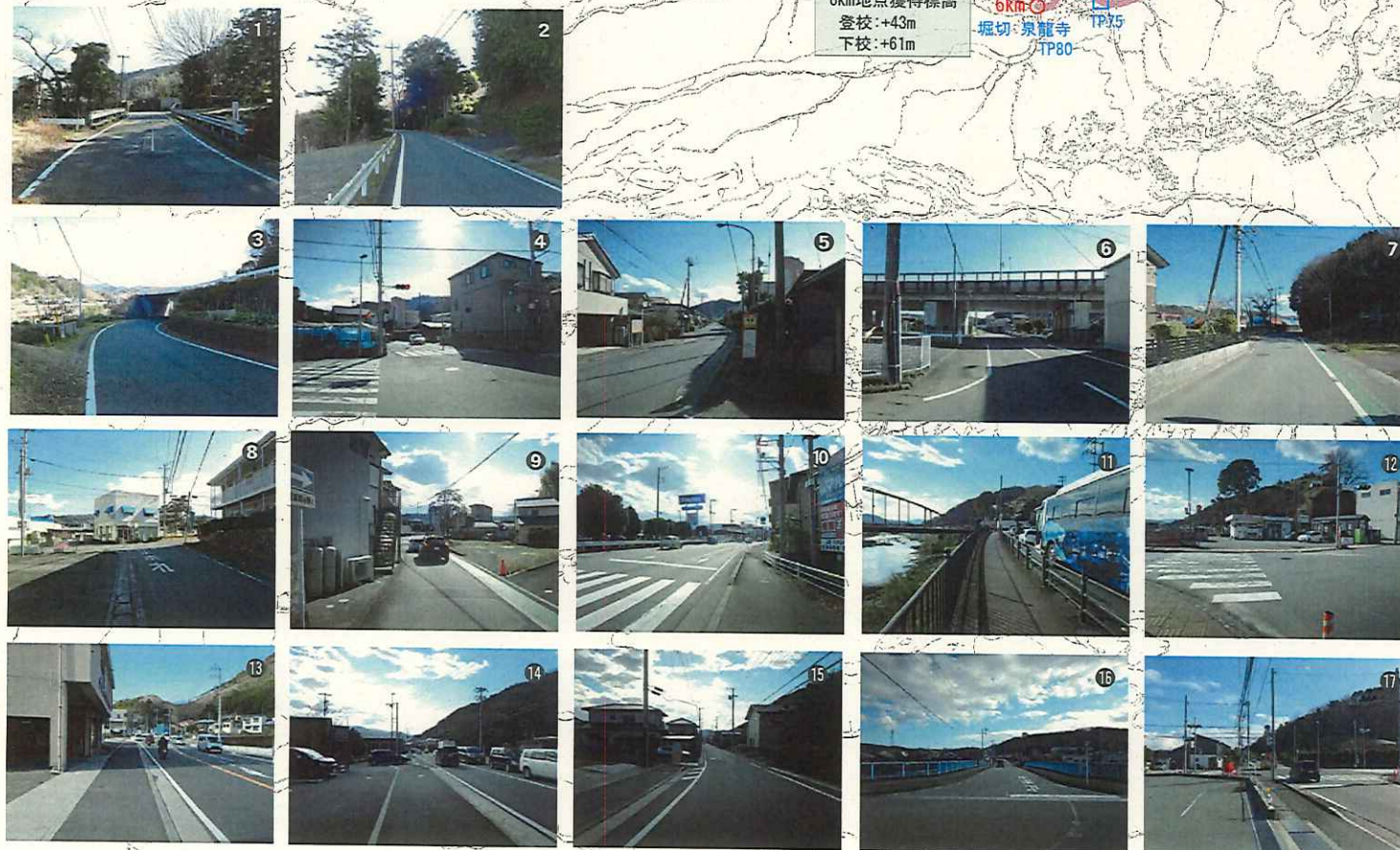


- 【凡例】
- : 2、4、6km地点
 - : 海拔 (TP: Tokyo Peil) 記載地点
 - ①: 画像撮影地点
 - ▲: 経路全体の勾配と逆の部分

6-2. 自転車通学について 自転車通学経路の調査

⑤ 熊坂方面

起点から熊坂小学校までは、道路幅が狭い箇所が一部あるが、狩野川の勾配程度の高低差であるため自転車通学には問題ない。
熊坂小学校から6km地点は、所々に急坂がある上り坂が続く。
熊坂小学校周辺までの経路の車道には、自転車用青矢羽根表示や、歩道に自転車通行可能表示が必要。



6km地点獲得標高
登校: +43m
下校: +61m

4km地点獲得標高
登校: +39m
下校: +6m

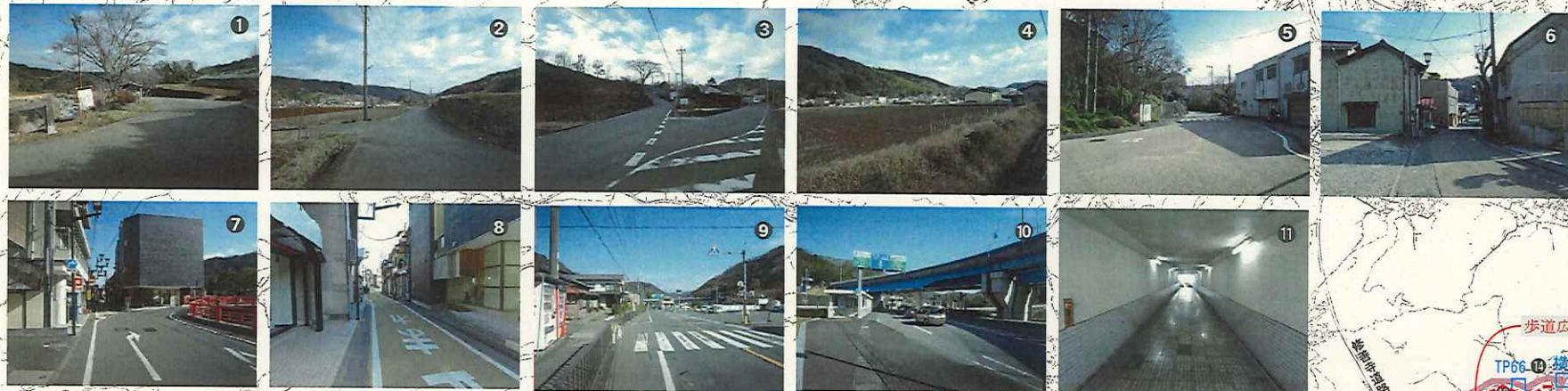
道幅が一部狭く
くびれている

道幅狭い≒5.1m

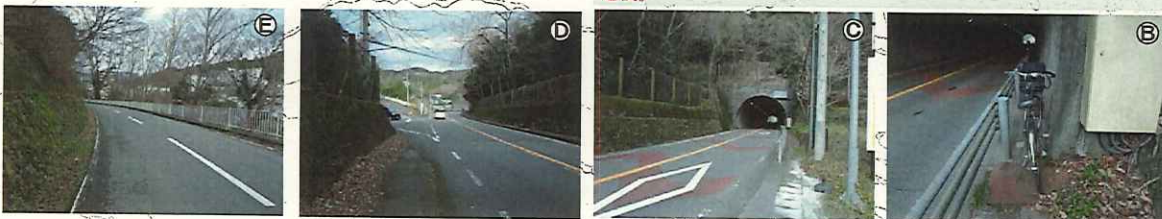
- 【凡例】
- : 2、4、6km地点
 - : 海拔 (TP: Tokyo Peil) 記載地点
 - ①: 画像撮影地点
 - ▲: 経路全体の勾配と逆の部分

6-2. 自転車通学について
自転車通学経路の調査

⑥ 修善寺小学校方面



修善寺小学校方面へは、越路トンネルを利用したほうが距離は短くなるが、トンネルや修善寺東小学校前の急勾配の坂道は危険である。横瀬から修善寺道路の間は歩道も広く平坦な部分もあるが、急流な桂川に沿った経路全体としては標高差が大きい。温泉街周辺の道は、観光バスの通行が多いため注意が必要である。経路の車道に自転車用青矢羽根表示や、歩道に自転車通行可能表示が必要。

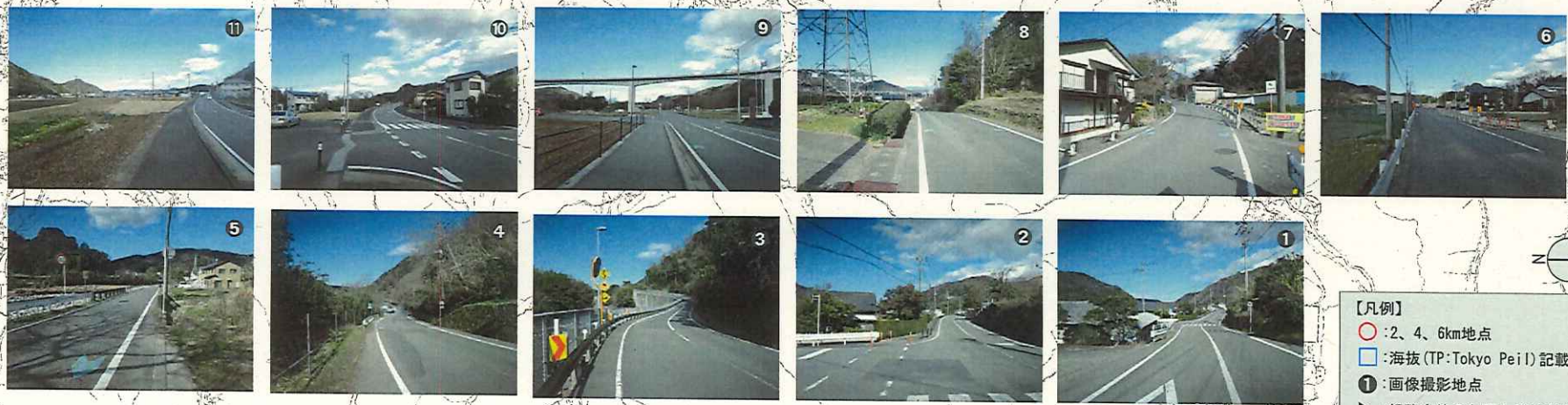


- 【凡例】
- : 2、4、6km地点
 - : 海拔 (TP: Tokyo Peil) 記載地点
 - ① : 画像撮影地点
 - ▲ : 経路全体の勾配と逆の部分

6-2. 自転車通学について
自転車通学経路の調査

⑧ 天城方面(県道側)

峠のように高低差のあるところが2箇所あり、道幅狭いところも何箇所かはあるが、交通量は国道ほど少なく整備されている部分もあり判断が難しい。
部分的に自転車用青矢羽表示があるが矢羽根の間隔が広い。
自転車の通学路とするのであれば起点から2.5km地点の丘の部分や、周りと比べて道幅が狭くなる部分にはレーンとして路面塗装したい。



【凡例】

- : 2、4、6km地点
- : 海拔 (TP: Tokyo Peil) 記載地点
- ①: 画像撮影地点
- ▲: 経路全体の勾配と逆の部分

7. 概略事業工程表

7. 概略事業工程表

[illegible]

8. 概算工事金額

8.概算工事金額

日向地区計画案 概算工事金額			
工事内容		金額(税込)	
造成工事	・ 40,000㎡	500,000,000 円	
建築工事			
校舎棟	・ RC4階 11,500㎡		4,370,000,000 円
		A: 建築工事	3,170,000,000 円
		E: 電気設備工事	568,000,000 円
		M: 機械設備工事	632,000,000 円
体育館棟・部室棟	・ RC1階 1,800㎡		683,000,000 円
		A: 建築工事	587,000,000 円
		E: 電気設備工事	62,000,000 円
		M: 機械設備工事	34,000,000 円
外構整備	・ 26,700㎡		267,000,000 円
計		5,320,000,000 円	
工事費合計		5,820,000,000 円	
敷地購入費		660,000,000 円	
事業費合計		6,480,000,000 円	